

多くの中学生が参加した陸上部対象の合同部活動。大学生からの指導や他校との交流が高評価だった＝16日、八戸市東運動公園

八戸 中学校の合同部活動試行

充実の内容、他校と交流

生徒や顧問高い評価

公立中学校の休日部活動を地域団体などに委ねる「地域移行」に向け、八戸市地域スポーツ・文化活動検討協議会（会長・木村浩哉八戸学院大教授）は25日、八戸市庁で2024年度第3回会合を開き、10、11月に実施した合同部活動の試行結果を事務局が報告した。生徒、顧問を対象としたアンケートで、充実した活動内容や他校との交流は高評価を得た。一方、会場までの送迎や参加できる生徒の範囲が限定されていることなどが課題に挙がり、運営体制に改善の余地を残した。

（上條哲洋）

送迎、参加範囲に課題



合同部活動の試行は10月5日に総合文化・美術部、11月16日に陸上部を対象に実施。前者は市埋蔵文化財センター・是川縄文館で3校15人が合掌土偶作りを体験し、後者は市東運動公園で八戸学院大の陸上部員から指導を受けながら16校180人が練習に励んだ。

参加生徒へのアンケートでは「普段の学校部活動ではできない体験ができた」「他校の生徒との活動でモチベーションが上がる」など、好意的な意見が多かった。一方、「送迎手段がなく参加できない生徒がいた」「該当する部に所属していない生徒の参加を見送った」など、交通手段の確保や参加条件の設定に改善

を求める声もあった。また、陸上部の合同練習

は、大学生の協力で想定を上回る参加者数にも対応できたが、他競技でも同様に指導者を確保できるかなど課題も浮き彫りとなった。合同部活動は年度内に総合文化・美術部対象をあと3回、陸上部対象をあと1回実施する予定。木村会長は「本格的な地域移行に向けてモデルケースをつくることが大事」として、試行を重ねた先を見据えた。